

從描述性翻譯研究探究否定表現的反轉現象 —以《雪國》中文譯本為例—

林寄雯*

中文摘要

本論文試以描述性翻譯研究的方法，就中日兩語否定表現的反轉現象進行研究。一般認為日語是一種善於以否定表現來表達的語言。而中文則屬否定辭極其豐富的語言。日語否定表現的否定辭有「ない、ず、まい、な、ません」。中文否定辭「不、沒（沒有）、別」的使用頻率較高。其餘的中文否定辭包括有「未、無、非、莫、甬、勿、休、毋」等詞。

描述性翻譯研究的方法為一實證的學問，主要研究的內容為描述、說明、預測翻譯現象。描述性翻譯研究是根據來源語和目標語來進行。描述來源語和目標語之間的關係，就所獲得的見解提出說明。

本論文以《雪國》為分析對象，就《雪國》中文譯本所抽樣出來的對譯文進行分析。藉此闡明中日兩語否定表現的反轉現象。

關鍵字：否定表現、肯定表現、否定辭、反轉現象、語用論

*淡江大學日本語文學系副教授

A research about inversion phenomenon of negative expression using methodology of descriptive translation study : “Snow Country” as sample

Lin Chi-Wen*

Abstract

This paper used methodology of descriptive translation study, to research negative expression of the inversion phenomenon both Japanese and Chinese. Japanese prefer negative expression to affirmative relatively. On the other hand, Chinese is abundant of negative markers. There are many Japanese negative markers as follow “ない、ず、まい、な、ません ”. The high frequency usage of Chinese translation markers are “不、沒（沒有）、別”. The descriptive translation study is empirical scholarship. To descript explain and predict translation phenomenon. The most popular description translation study is based on corpus between source language and target language. This paper used “Snow Country” as subject of study. It based on Extracting from Chinese translation versions of “Snow Country” compare to bilingual corpus. This paper found out the inversion phenomenon about negative expression both Japanese and Chinese as conclusion.

Keywords : negative expression , affirmative, negative markers,
inversion phenomenon, pragmatics

*Associate Professor, Tamkang University

記述的翻訳研究から否定表現の反転現象を探る —『雪国』の中国語訳本を例に—

林寄雯*

要旨

本論は記述的翻訳研究の方法から日中両語の否定表現の反転現象を研究するものである。日本語は否定表現を好む言語だと言われる。一方、中国語は否定辞が豊富な言語である。日本語の否定辞に「ない、ず、まい、な、ません」がある。中国語の否定辞に「不、没（沒有）、別」の使用頻度が高く、他に「未、無、非、莫、甬、勿、休、毋」などの否定辞が挙げられる。

記述的翻訳研究は実証的な学問であり、翻訳現象を記述、説明、予測するものである。また、最も一般的な記述的翻訳研究は起点テキストと目標テキストに基づく研究である。起点テキストと目標テキストの関係を記述し、そこから得た知見の説明を提示するものである。

本論では、『雪国』を分析の対象にし、『雪国』の中国語訳から抽出した対訳訳文に基づき、日中両語における否定表現の反転現象を解明する。

キーワード：否定表現、肯定表現、否定辞、反転現象、語用論

*淡江大学日本語文学科副教授

記述的翻訳研究から否定表現の反転現象を探る — 『雪国』の中国語訳本を例に—

林寄雯*

1 はじめに

本論は記述的翻訳研究の方法から日中両語の否定表現の反転現象を研究するものである。日本語は否定表現を好む言語と言われる。否定辞に「ない、ず、まい、な、ません」がある。中国語の否定辞に「不・沒(沒有)・別」の使用頻度が高く、他に「未、無、非、莫、甬、勿、休、毋」などの否定辞が挙げられる。

記述的翻訳研究は実証的な学問であり、翻訳現象を記述、説明、予測するものである。また、最も一般的な記述的翻訳研究は起点テキストと目標テキストに基づく研究である。起点テキストと目標テキストの関係を記述し、そこから得た知見の説明を提示するものである。本論では『雪国』の李永熾訳、高慧勤訳、葉渭渠訳の中国語訳本を原文と対照し、中国語の文脈に置かれた訳者が選択するオプションの特徴を提示する。

『雪国』を分析の対象にし、『雪国』の中国語訳から抽出した対訳訳文に基づき、日中両語における否定表現の反転現象を解明する。

2 否定表現の語用論的前提

人間が外界の変化や出来事を感知して記述・伝達する場合、特別な前提がなければ通例として否定表現を使わずに肯定表現を使う。

森田良行(1977,339-343)の論述によれば¹、否定表現を使う前提には「話し手の当初の予想に反している」という共通の発想がある。また、森田は陳述副詞「ちっとも」「少しも」「ぜんぜん」等自体に、予想外、期待はずれの意識が感じられるのも、これらの副詞が本来、

*淡江大学外国語学院日本語文学科副教授

¹ 森田良行(1977)『基礎日本語 I』角川書店 P339-343

否定表現的発想の上に成り立つ語だからと述べている。その上、「～ない」の否定表現は、客観的叙述を基盤とした肯定表現とは異なっており、きわめて主観的な表現であると否定表現の主観性を強調している。こうした前提によって、否定疑問（～ないの）、勧誘・命令（～ないか）、否定勧誘（～ないところか）、確認（～ないか）、婉曲（～じゃないの？）、推量（～じゃないだろうか）、否定推量（～ないのではないか）、感動・驚嘆（～じゃないか）、否定感動（～ではないのか）、願望・希望（～ないかなあ）、否定願望（～ないといいが）といった否定表現の用法が使われる。

黄憲堂(1991,181/2016,148)が「否定表現の構造と意味」²で、否定の語用論的前提を「否定表現が使える「前提」は色々考えられるが、最も一般的とされるのは、話し手が変化や出来事（普通肯定の形）の発生を予想し、またはそれを信じている場合」と述べている。

また、林綺雲(2001,337)は「日本語の否定表現から見た日本人の思考様式³」という論で、日本語は「否定表現を用いて、結局のところ、消極的な肯定、間接的な肯定、強い肯定などというべくいろいろな肯定内容を伝える場合が多い」と述べた。同論文では太宰治の『人間失格』と梶井基次郎の『檸檬』ほか20編の短編小説に使用された否定辞「ない」を伴う表現を取り出して、消極的または間接的な肯定表現を考察し、次のような四つのパターンにまとめた。

- 1) 反語的否定表現—「からだを丈夫にしなけれや、いかんね。
血痰が出ているようじゃないか」(太宰) (下線は引用のまま)
- 2) 二重の否定表現—「しかしあなたの気持ちは僕にはわからなくはありません。…」(梶井)
- 3) 語彙的否定表現—「母が私にがみがみおこってくるこゝろがあ

² 黄憲堂(2016)『日本語の構文研究 黄憲堂論文集』致良出版社に所収された「否定表現の構造と意味」(初出『日本論叢』第1輯1991年P180-199)P147-149。

³ 林綺雲(2001)「日本語の否定表現から見た日本人の思考様式」(劉長輝・陳伯陶主編『「亞洲中的日本・日本中的亞洲」國際學術會議論文集』大新書局に所収された論文P337-353)

ります。そしてしまいには突拍子もないののしり方をして笑ってしまうことがあります」（梶井）

- 4) 文型的否定表現—「傷つけられないうちに、早く、このまま、わかれたいとあせり、…」(太宰)

同論文では、反語的否定表現が日本語としてきわめて発達している表現としてとりあげられ、「相手に否定的に問いかけて、実は肯定的判断を引き出させる、いわば反語的否定表現ともいうべき形式」としている。同論文では、用例から7つの発話パターンがまとめられた。つまり、「依頼の意を表す」「勧誘の意を表す」「推量の意を表す」「非難や命令の意を表す」「相手に同意を求める、または強く主張する意を表す」「自分の考えや意見を婉曲に述べ立てる意を表す」「詠嘆の意を表す」といった7つの発話パターンである。

なお、葉淑華(1999,256)が「否定述語のアスペクト的意味機能⁴」で、「動詞は助動詞「ナイ」を付け加えることにより、動作性を失って、形容詞に近づく」と問題提起をし、「助動詞「ナイ」が、単なる事柄の否定という機能のほかに、アスペクト的意味機能をも許容される」と60ほどの具体例をとりあげながら、「継続相」、「反復相」、「副詞節の場合」の側面から検証した。「久しく会っていない」「最近いらっしゃいませんのね」といった例に、「久しい」「最近」のような時間範囲をしめす状況語でかざられると、文全体としてはアスペクト的意味機能が顕著に表れてくると述べた。

なお、葉淑華(1999,103)は「否定表現における交替現象を見る⁵」という論で、同じ事柄を否定的に述べる場合、「不正確」と「正確ではない」と二通りの表現法があると問題提起し、否定接辞による否定と形態的否定の交替現象と交替できる条件について詳しく分析した。

4 葉淑華 (1999) 「否定述語のアスペクト的意味機能」『台湾日本語教育論文集』第三号 P255-268

5 葉淑華 (1999) 「否定表現における交替現象を見る」『邁向二十一世紀的日本研究國際會議論文集』輔仁大學 P103-117

3 中国語の否定辞の多様性

中国語の否定辞は多様である。中国語の否定辞に「不、沒(沒有)、別」の使用頻度が高いが、他に「未、無、非、莫、甬、勿、休、毋」などの否定辞が挙げられる。

中国語文法に関する重要な著書『中国話的文法』⁶では、中国語の動詞の基本的な特徴は、否定副詞の「不」が付けられることだと説明している。否定を表す副詞に、「不」と「沒(有)」が使われ、「沒(有)」は動詞の過去形の時にしか使われない。また、副詞の「非(要)」は否定辞ではあるが、意味上は肯定を強く表現するときに使われる。それは「非(要)」は「非、、、不」の省略だからである。なお、「豈」は反問の否定副詞で、例えば「他豈可以對我這樣?」「豈有此理」「豈敢」といった用例がある。『中国話的文法』で示されるように、中国語の否定辞「非」は強い肯定を意味する。

また、『近代漢語語法研究』⁷では中国古代から使われてきた否定表現の「不」には四種類の使い方がありと述べている。一つ目は現代一般の否定として使われる表現である。二つ目は実現に対する否定で、現代の「沒」に相当する用法である。例えば「君不見高堂明鏡悲白髮，朝成青絲暮成雪（李白《將進酒》）」の「不」の用法である。三つ目は名詞を否定する用法である。例えば「不人不鬼」である。四つ目の用法は単なる発声の助語で否定の意味がないので、よく間違えられる。例えば、「旁人見你這般疼奴，在奴身邊的多，都氣不憤（《金瓶梅》十二回）」の「氣不憤」は肯定の意味「氣憤」である。現代でも上記の四種類の否定表現が使われている。『近代漢語語法研究』で示されるように、「氣不憤」といった否定表現をもって肯定の意味を表す。

⁶ 趙元任著丁邦新訳（1994）『中国話的文法』學生書局 P335,372 の内容より日本語にまとめたものである。原著 A Grammar of Spoken Chinese（1968 年 University of California Press）は 1980 年に丁邦新によって中国語版に訳された。

⁷ 俞光中・植田均（1999）『近代漢語語法研究』學林出版社 P314-325

石毓智(1992,29-31)は『肯定和否定的對稱與不對稱』⁸の論で否定を表す例文として次の用例を取り上げる。

- ① 不像話就不像話吧，像話誰又多給幾個錢呢？
- ② 人家讓太太送來，我好意思不收下嗎？
- ③ 他哪裡知道人家是在笑話他。
- ④ 他這個人死要面子，哪裡會認錯。
- ⑤ 他拒絕回答這個問題。
- ⑥ 他懶得去逛公園。

上記の例について石毓智は次のように説明する。①と②は反問の否定で、③と④は疑問詞「哪裡」によって否定を表す。こちらの「哪裡」は「不」に置き換えることができる。⑤と⑥は否定の語句「拒絕」と「懶」を使って否定を表現する。否定辞の「不」と「没」以外に、祈使句（命令文に相当）にしか使わない「別」「甬」がある。書き言葉として使われる否定辞に「無、莫、勿、未、休、毋」がある。

上記の説明によって、否定辞として使われる「不」「没」のほかに、否定辞でない「哪裡」「拒絕」「懶」も否定の意味を表現できる語句として使われることが分かる。つまり、中国語では否定辞を使用せずに、否定の意を表す用法がある。

形態からいえば、日本語の否定辞は述語の後に置く機能語であるのに対し、中国語の否定辞は謂語（述語に相当）、状語（連用修飾語に相当）、補語の前に置く副詞である。否定辞の位置は外国人に中国語を教えるときの重要なポイントとなるが、日中翻訳に関する教材では、否定表現の翻訳方法が教えられ、そのなかで、否定表現と肯定表現の問題が日中翻訳教育上の問題点となる。

上述した先行研究によれば、日中両語とも否定辞をもって肯定を表す意味機能がある。また、中国語では否定辞を使わないで否定の意を表す「哪裡」「拒絕」「懶」といった表現がある。

⁸ 石毓智（1992）『肯定和否定的對稱與不對稱』台灣學生書局 P29-31

拙論「否定表現の中国語訳に関する一考察—『雪国』の中国語訳本を例として—」⁹では、『雪国』の中国語訳本を用例に、日本語の否定表現を中国語の肯定表現に訳された訳例に焦点を当て、否定表現の中国語訳の具体的な使用状況を明らかにした。

『雪国』に使われた否定辞には、「ない」、「ず」、「まい」、「まじい」、「ん」（打ち消し助動詞「ぬ」の転）がある。『雪国』の李永熾訳、高慧勤訳、葉渭渠訳の中国語訳本に、否定辞の「不」「没」「沒有」「別」「無」「非」「未」「豈不」「甬」が使用された。『雪国』の否定表現の使用例は785例である。そのうち、李永熾訳の肯定表現に訳された例は145例で、原文の否定表現に占められている比率は18%である。高慧勤訳の肯定表現に訳された例は161例で、原文の否定表現に占められている比率は20%である。葉渭渠訳の肯定表現に訳された例は160例で、原文の否定表現に占められている比率は20%である。

なお、李訳、高訳、葉訳によって肯定表現に訳された中国語訳の総用例数は236例で、約3分の1の比率となる。そのうち、三訳本とも肯定表現に訳された用例数は83例で、約10分の1となる。総用例数236例で約3分の1の比率からみれば、日本語の否定表現を中国語の肯定表現で表現する比率は高いと言えよう。一方、日本語の否定表現を中国語の肯定表現によって訳された表現方法は訳者によって一貫性がなくばらつきが大きいことがわかる。

肯定表現に訳された例をみると、前後文に合わせた語用的な「雪を積もらせぬ（防止積雪）」「つかめない（撲朔迷離）」「じっと動かぬ（亭亭玉立）」「知らん（管它呢）」などの語句に訳された訳語が目立った。これらの訳語は機械翻訳では取り扱いにくい訳語と言えよう。

また、「難～」「哪～」「怎麼」「怎能」といった中国語の否定辞を使わず、意味合い上否定的な語句に訳された訳語が多い。例として、

⁹ 林寄雯（2018）「否定表現の中国語訳に関する一考察—『雪国』の中国語訳本を例として—」『台湾日本語文學報』44輯 P199-224

「分からないわ、東京の人は複雑で」が「東京人真複雑，實在難捉摸啊」と訳された例などである。

4 肯定表現が否定表現に訳された用例

本節では『雪国』を例に、日本語の肯定表現が中国語の否定表現に訳された語句の使用例を考察する。語彙的肯定表現を除いて¹⁰、構文的肯定形式を例に取り上げる。原文のテキストは新潮文庫 2008 年発行 140 刷¹¹を使用する。現在台湾で出版された『雪国』の中国語訳本は 14 冊¹²ある。そのうち次の 3 冊を用例分析の考察対象に取り上げる。一冊目は台湾で比較的古い訳本として知られている李永熾訳遠景出版 1978 年初版の訳本である。二冊目は版を重ねて出版された高慧勤訳桂冠図書出版 1998 年初版の訳本である。三冊目は近年多く読まれた葉渭渠訳木馬文化出版 2002 年初版の訳本である。

『雪国』原文テキストの否定表現の使用例は 785 例であるのに対し、李永熾訳の否定表現の使用例は 804 例で、高慧勤訳の否定表現の使用例は 865 例で、葉渭渠訳の否定表現の使用例は 879 である。起点テキストの日本語の原文より目標テキストの中国語訳のほうが否定表現を多く使われていることがわかる。

一方、『雪国』の肯定表現が中国語の否定表現に訳された用例数を

¹⁰ 名詞の「いいなづけ（未婚夫）」「厚かましさ（無恥）」「未知（未知）」「無為徒食（無所事事）」、副詞の「時々（不時）」「せっかく（好不容易特地）」「ふと（無端）」「ふっと（冷不防地）」「やがて（過不多久）」「なぜか（不知怎地）」「どうしてか（不知為什麼）」、接続詞の「しかし（不過）」「だって（可不是）」、感嘆詞の「ううん（不）」「はい（不錯）」などの例である。

¹¹ 『雪国』の原文は新潮文庫 1947 年発行、2006 年 132 刷改版、2008 年 140 刷のものを使用する。

¹² 國家圖書館と全國圖書書目資訊網での調べによる『雪国』の中国語訳本を年代順で次に示す。1969 年喬遷訳三民出版、1969 年施翠峰訳東方出版、1969 年趙長年訳正文出版、1969 年訳者不明王家出版、1979 年李永熾訳遠景出版、1981 年金溟若・張秀英訳星光出版、1988 年鄭凱訳大嘉出版、1988 年蕭羽文訳志文出版、1990 年石榴紅文字工作坊訳久大出版、1991 年鄭皮耶訳龍和出版、1998 年高慧勤訳桂冠出版、2000 年路耿冰訳華文網出版、2001 年謝政訳華城図書出版、2002 年葉渭渠訳木馬文化出版。

まとめると、李訳は 164 例で、高訳は 241 例で、葉訳は 254 例である。また、李訳と高訳と葉訳の三訳本によって日本語の肯定表現が中国語の否定表現に訳された総用例数は 431 例となる。三訳本の用例数の詳細をつぎの表 1 「『雪国』の肯定表現が否定表現に訳された用例数」で示す。表 1 の A は李訳と高訳と葉訳の三訳本とも否定表現に訳された用例数を示す。B1 は李訳と高訳が否定表現に訳された用例数を示す。B2 は李訳と葉訳が否定表現に訳された用例数を示す。B3 は高訳と葉訳が否定表現に訳された用例数を示す。C1 は李訳だけが否定表現に訳された用例数を示す。C2 は高訳だけが否定表現に訳された用例数を示す。C3 は葉訳だけが否定表現に訳された用例数を示す。

	A	B1	B2	B3	C1	C2	C3	A+B+C
李訳	70	11	28		55			164
高訳	70	11		49		111		241
葉訳	70		28	49			107	254
総用例数	70	88		273				431

(表 1 『雪国』の肯定表現が否定表現に訳された用例数)

使用例によって、つぎのような特徴がみられる。パターン 1 は、前後文に合わせた語用的な訳語である。「忘れていた (沒有想到)」 「物語めいた興味 (不尋常的興趣)」 「失敗した (不合適)」 「答に迷って (不知怎樣回答)」 「高低につれて (高低不同)」 などといった用例である。パターン 2 は、形態上は肯定表現であるが、意味上は否定的な意味合いである例が挙げられる。「悪い (不好意思)」 「違う (不對)」 「いやよ (別這樣嗎)」 などといった用例である。パターン 3 は、反問と疑問の用例である。「透明かどうか (是不是真的透明呢)」 「なぜか (不知為什麼)」 「来たでしょ (不就來了嗎)」 「病人があるんだろう (不是有病人嗎)」 などといった例である。パターン 4 は、文型的な表現である。「その色は湿ったというよりも (那不是潮濕的顔

色)」「なつかしくなって来た(不禁有點感傷)」などといった用例である。パターン5は、動詞の状態を強める例である。「痺れていた(麻木不仁)」「びっくりした(驚愕不已)」などといった例である。パターン6は、その他の例である。「芸者を呼ぶ前(未換藝妓之前)」「島村が彼らしく(島村不愧是島村)」「一番初めに書いてある(開頭不就是記他的嗎)」などといった例である。各パターンの具体例をつぎにとりあげる。

パターン1 前後文に合わせた語用的な訳語

『雪国』における肯定表現が前後文に合わせた語用的な中国語の否定表現に訳された具体例をつぎに取り上げる¹³。

A ロシア女は答えに迷って、店をかたづけながら考える風だった。
(p87)

李訳 俄國女人不知如何回答是好，一邊收拾攤子，一面思考。
(p62)

高訳 俄國女人不知怎樣回答才好，一邊收拾攤子，一邊像在思索的樣子。(p69)

葉訳 俄國女人不知怎樣回答，一邊收拾貨攤，一邊思忖著。(p89)

B1 これからですよ。(p14)

李訳 是的，還沒開始。(p9)

高訳 可不是，剛開頭。(p10)

B2 今年は頁毎に日附の入ったのしか買えなくて、失敗したわ。
(p39)

李訳 今年只能買每頁都附上日期的本子，這就不行了。(p28)

葉訳 今年只買到那種每頁都帶年月日的，不合適。(p47)

B3 誰が贅沢な気持で生きてるもんか。(p113)

¹³ A→B1→B2→B3→C1→C2→C3の順番で取り上げる。ふさわしい用例がない場合は省略する。()で示したのは原文及び李訳、高訳、葉訳のそれぞれ引用したページ付けである。以下の用例の引用も同。

- 高訳 誰閑得沒事做了? (p91)
- 葉訳 誰玩世不恭了? (p112)
- C1 酔いの苦しさは忘れたように抜けたらしかった。(p36)
- 李訳 沉醉的痛苦彷彿已消失得無影無踪。(p25)
- C2 幾分下地があるとは言え、複雑な曲を音譜で独習し、譜を離れて弾きこなせるまでには、強い意志の努力が重なっているにちがいない。(p70)
- 高訳 雖說有幾分根基，然而，僅憑曲譜來練習複雜的曲子，並能不看譜子彈撥自如，非有頑強的意志，經年累月的努力不可。(p55)
- C3 島村が葉子を長い間盗見しながら彼女に悪いということを忘れていたのは、夕景色の鏡の非現実な力にとらえられていたからだったろう。(p11)
- 葉訳 島村長時間地偷看葉子，卻沒有想到這樣做會對她有什麼不禮貌，他大概是被鏡中暮景那種虛幻的力量吸引住了。(p22)

上記にとりあげた具体例のほかに、「今の人が引いたんですか（現
在那個人已經不操舊業了）」「ほっときなさい（你就甬打聽了）」「最
早洋装という感じも失せ（已經不像是西裝）」「芸者を勤めあげた後
（不當藝妓之後）」「一番肩の張るお客さま（你這個客人，真叫人不自
然）」「暖国の人に見せたいと（恨不能讓南國的人們也來觀賞）」「そ
れでいいのよ（得了，甬去想）」「休む日もあるのよ（也有沒寫的
日子）」「生も死も休止したよ（已無生無死）」などといった使用例が
ある。

なお、上記 C1 の「酔いの苦しさは忘れたように抜けたらしかった」の例をと
りあげてみれば、李訳だけが「沉醉的痛苦彷彿已消失得無影無踪」と否定表
現に訳され、高訳では「酒醉之後的痛苦，似乎已經過去」と肯定表現に訳
され、葉訳も「她似乎完全忘掉了醉後的痛苦」と肯定表現に訳される。訳
者によって、一貫性がないこと

がわかる。

パターン2 形態上は肯定表現、意味上は否定的意味合い

日本語としての形態が肯定表現であるが、意味上は否定の意味合いが含まれる例をとりあげる。意味合いから言えばマイナス的表現であるため、中国語の訳語では否定表現に訳される例がみられる。

A 飲んで困ります。(p57)

李訳 喝得叫人受不了。(p40)

高訳 喝得簡直拿他沒辦法。(p44)

葉訳 喝得厲害，簡直沒法子。(p62)

B1 よく見てくださらなければ駄目よ。(p45)

李訳 不仔細瞧瞧可不行。(p32)

高訳 你非好好看看不可。(p35)

B2 人間の官能はよほどちがったものであったにちがいない。
(p107)

李訳 人的官能一定相當不同。(p77)

葉訳 人的官能一定很不一樣了。(p106)

B3 怪しい話だとたかをくくっていたが、(p18)

高訳 島村覺得不大可信，根本就沒當回事。(p13)

葉訳 島村認為這話不可靠，跟本沒有把它放在心上。(p28)

C1 島村はなにか非現実的なものに乗って、時間や距離の思いも消え、(p84)

李訳 島村彷彿坐在非現實的物體上，沒有時間與距離感。(p60)

C2 落ちるわ。(p52)

高訳 怎麼沒摔。(p40)

C3 どうしたの。いやよ。(p167)

葉訳 你怎麼啦？別這樣嘛。(p160)

上記にとりあげた具体例のほかに、「止めた(不要了)」「疑う(不

信)」「軽蔑して(瞧不起你)」「失敗して(嫁人不成)」「つまっていた(不通氣)」「気が散る(不以為意)」「散らす(不在乎)」「悪かったね(太不好了)」などといった使用例がある。

なお、上記 C2 の「落ちるわ」の例をとりあげてみれば、高訳だけが「怎麼沒摔」と否定表現に訳され、李訳では「會掉下來的」と肯定表現に訳され、葉訳も「摔過哩」と肯定表現に訳される。訳者によって、一貫性がないことがわかる。

パターン3 反問と疑問

つぎに肯定形の反問と疑問によって、中国語の否定表現に訳された例をまとめる。中国語訳では「不是…嗎」「不就…嗎」「還不是」「不知」「肯不肯」「在不在」「是不是」「有沒有」「是不」「沒有」といった訳語で日本語の肯定形の疑問、反問を表している。

A どうしたんでしょう。(p58)

李訳 不知怎麼樣啦？(p41)

高訳 也不知究竟是怎麼回事。(p45)

葉訳 不知是怎麼回事？(p64)

B1 それはどうしようと芸者の勝手だけれども、(p25)

李訳 肯不肯全是藝妓的自由、(p18)

高訳 說不管怎麼著，反正得由藝妓自己作主。(p19)

B2 しかし、ほんとうに透明かどうかは、(p11)

李訳 然而究竟是不是真的透明？(p7)

葉訳 是不是真的透明呢？(p22)

B3 その浜松の人となにかあったのかい。(p62)

高訳 你同濱松那個人之間，是不是已經有點什麼？(p48)

葉訳 你和那個濱松的男人是不是有什麼關係？(p67)

C1 あの娘さんも手伝ってるんだね。(p130)

李訳 那姑娘也來幫忙，是不是？(p95)

C2 さては時の流れの象徴であったかと、(p15)

高訳 不是恰好象徵著時光的流逝嗎? (p14)

C3 だって君の家、病人があるんだらう。(p50)

葉訳 可是，你家裡不是有病人嗎? (p56)

上記にとりあげた具体例のほかに、「遅く帰るでしょう（不是回來得很晚嗎）」「きまりきってるでしょう（還不是老一套）」「呼ばれたでしょう（不是叫我去了嗎）」「来たでしょ（不就來了嗎）」「鳴ったのだからか（不知今年是否已經海吼山鳴過了）」「なにをしてるんだらうね（不知都在幹什麼呢）」「まだいるかい（還在不在）」「見えるわね（看見了是不是）」「五人もあったのかい（有沒有五個人）」「面白いの（挺有趣，是不）」「あんたあの子が欲しいの（你想要她是不是）」「あの子なんて言ったの（那孩子說什麼沒有）」「手伝ってるんだね（也來幫忙，是不是）」などといった使用例がある。

なお、上記 C1 の「あの娘さんも手伝ってるんだね」の例をとりあげてみれば、李訳だけが「那姑娘也來幫忙，是不是」と否定表現に訳され、高訳では「她也在幫忙嗎」と肯定表現に訳され、葉訳も「那位姑娘也在幫忙嗎」と肯定表現に訳される。訳者によって、一貫性がないことがわかる。

パターン4 文型的表現

つぎに肯定形の文型的表現が中国語の否定表現に訳された例をまとめる。主に「～どころか」「～なって来た」「～まで」「～まま」「～より」「～ほど」「～ていい」「～ぐらい」などの文型である。

A 彼女は彼を責めるどころか、体いっぱいになつかしさを感じていることが知れるので、(p16)

李訳 島村知道：她不僅沒有責怪自己，反而渾身洋溢著親密之情，(p11)

高訳 島村仍然感覺出，她非但沒有責怪自己的意思，反而整個身體都對他感到依戀。(p11)

- 葉訳 他察覺到她不僅沒有責備自己的意思，反而在一心傾慕自己。(p26)
- B2 島村は感傷的に人肌がなつかしくなって来た。(p107)
- 李訳 不禁感傷地懷念起人的肌膚。(p78)
- 葉訳 不禁有點感傷，戀慕起人的肌膚來。(p106)
- B3 つい近年鉄道の通じるまでは、主に農家の人々の湯治場だったという。(p26)
- 高訳 前幾年，火車還不通，據說這兒只要是農家溫泉療養地。(p20)
- 葉訳 據說幾年前還沒通鐵路的時候，這裡主要農民是溫泉療養地¹⁴。(p36)
- C1 気がつけば窓を開け放したままなのであった。(p60)
- 李訳 凝神觀察，原來敞著窗子沒關。(p42)
- C2 そうでもするより、しかたがないでしょう。(p95)
- 高訳 要丕，怎麼辦？(p75)
- C3 山の初夏を見て来た自分の眼のせいかと、島村は疑ったほどだった。(p18)
- 葉訳 島村不禁懷疑起自己的眼睛，是不是由於剛看過初夏群山的緣故。(p28)

上記にとりあげた具体例のほかに、「その色は湿ったというよりも（那不是潮濕的顔色）」「彼は驚いてしまったと言うよりも（他不是給懾服）」「病人がいたっていいですわ（有病人也不要緊）」「寄ってもいいね（去坐坐也不妨）」「悲しいほど美しい声であった（美得不能勝悲涼）」「そんな恰好をするほど寒いのかね（難道真冷得非穿成這個樣子不可嗎）」「うしろめたいぐらいだった（不免後悔不已）」などといった使用例がある。

¹⁴ 葉訳本のこの用例に誤植があるが、誤植のままに引用した。「這裡主要農民是溫泉療養地」の語順が間違いで、「這裡主要是農民溫泉療養地」のが正しい。

なお、上記 C1 の「気がつけば窓を開け放したままなのであった」の例をとりあげてみれば、李訳だけが「凝神觀察，原來敞著窗子沒關」と否定表現に訳され、高訳では「才發現窗戶一直敞著」と肯定表現に訳され、葉訳も「這才發現窗戶仍舊打開著」と肯定表現に訳される。訳者によって、一貫性がないことがわかる。

パターン 5 動詞の状態を強める例

つぎに、動詞の状態を強調される例をまとめる。起点テキストの日本語は肯定表現であるが、目標テキストでは中国語の「～不已」「～不前」「～不解」「～不堪」「～不語」「～不動」「～不綴」「～不斷」「～不清」「～不仁」「～不悟」「～不言」「～不見」「～不響」「～不決」「～不下」「～不作聲」などといった訳語によって、動作と状態を強めることがわかる。日本語の「～てやまない」、または長く深く強く続いていることを表している。

A 女は臉を落として黙った。(p20)

李訳 她垂下眼臉，默默不語。(p14)

高訳 姑娘垂下眼臉，默不作聲。(p15)

葉訳 女子垂下眼睛，默不作聲。(p30)

B1 それに彼は夏の避暑地を選び迷っている時だったので、(p23)

李訳 同時他正為選擇今夏的避暑地區而猶疑不決。(p16)

高訳 再說，他那時對夏天到哪兒去避暑，尚委決不下。(p17)

B2 島村はためらっていると女は素早く気づいて撥ね返すように、(p42)

李訳 島村不禁躊躇不前，她很快就察覺，彷彿要抵制一般，(p29)

葉訳 島村想起這句話，踟躕不前了。女子敏感地察覺到，條件反射似地站立起來。(p49)

B3 その網へ貼りつけたように、やはり蛾が一匹じっと静まっていた。(p86)

高訳 鐵紗上也貼著一隻飛蛾，一動不動，像黏在上面似的，(p68)

- 葉訳 還有一隻飛蛾，好像貼在紗窗上，靜靜地一動也不動，(p88)
- C1 駒子の顔はその光のなかにぽっと燃え浮ぶかとする間に消えてしまったが、(p83)
- 李訳 看來恍如駒子的臉在那光芒中猛然燃燒，隨即消失不見。
(p59)
- C2 島村はなんともいえぬ美しさに胸が顫えた、(p55)
- 高訳 島村覺得真是美不可言，心靈為之震顫不已。(p42)
- C3 人垣の前の雪は火と水で溶け、乱れた足形にぬかるんでいた。
(p169)
- 葉訳 人牆前面的雪被水和火融化，雪地上踏著雜亂的腳印，變得泥濘不堪了。(p162)

上記の具体例のほかに、「じっとしていた（紋風不動）」「痺れていた（麻木不仁）」「びっくりした（驚愕不已）」「消えてしまった（消失不見）」「声をつまらせた（噤聲不言）」「隠れていた（隱而不見）」「たたずんでいる（佇立不動）」「鳴りつづけている（鈴聲不綴）」「薄れた（朦朧不清）」「続く（連日不斷）」「むっつりしている（悶聲不響）」「鳴きしきっていた（唧啾不已）」「朽ち古びていた（枯朽不堪）」「迷っている（迷惑不解）」「狼狽した（狼狽不堪）」「黙った（默不作聲）」「夢中になる（執迷不悟）」などといった使用例がある。パターン5の用例数が多いことから、中国語では動詞の状態を肯定プラス否定といった四字熟語で表現することが修辞法の一つである。

なお、上記 C3 の「人垣の前の雪は火と水で溶け、乱れた足形にぬかるんでいた」の例をとりあげてみれば、葉訳だけが「人牆前面的雪被水和火融化，雪地上踏著雜亂的腳印，變得泥濘不堪了」と否定表現に訳され、李訳では「人牆前的雪已被水火融化，被雜亂的腳印弄得泥濘一片」と肯定表現に訳され、高訳も「而人牆前面的雪，因為火烤水澆已經融化，雜沓的腳印踩成一片泥濘」と肯定表現に訳される。訳者によって、一貫性がないことがわかる。

パターン6 その他

本項ではその他の例をとりあげる。主に認知的な表現、挨拶言葉、省略という表現が否定表現に訳された。

A 女はむっと嘲るように言ったけれども、芸者を呼ぶ前とは全く別な感情が二人の間に通っていた。(p30)

李訳 她氣憤地嘲笑說。可是兩人之間已有一種跟未叫藝妓前完全不同的感情。(p21)

高訳 她面帶慍色，刺了島村一句。然而，兩人之間感情的交流，和沒有叫藝妓之前，已全然不同。(p23)

葉訳 女子不高興地嘲諷了一句。不過，他倆之間已經交融著一種未喚藝妓之前迥然不同的情感。(p39)

B2 御免ください。御免ください。(p129)

李訳 對不起。對不起。(p94)

葉訳 對不起。裡面有人嗎？(p126)

B3 私は一度も参ったことがないから、こだわるのよ、ほんとうよ、一度も。(p115)

高訳 我從來沒有去過，所以，不免感到驚扭。真的，一次也沒去過。(p93)

葉訳 我一次也沒有來過，是有點拘束哩。說真的，一次也沒有來過。(p114)

C3 島村が彼らしく遠い空想をしていると、(p67)

葉訳 島村不愧是島村，他又陷入遐思。(p71)

上記にとりあげた具体例のほかに、「こんなところ（這種地方，恐怕待不了多久）」「言え言える（未嘗不可）」「冷笑しながら（不免自我解嘲）」「頭から徒労だと叩きつけてやろうと（非劈頭再給她一句不可，告訴她「純屬徒勞」）」「涙が落ちそうなのをこらえて（忍著不讓淚水落下）」「そこに女の片眼がはっきり浮き出たのだった（不知怎的，上面竟清晰地映出一隻女人的眼睛）」「びっくしたのは（不

覺吃了一驚)」「おんなじなんですもの(還不是老様子)」「ここで芸者に出たというのだから(不惜在這裡當藝妓)」などといった使用例がある。

なお、上記 C3 の「島村が彼らしく遠い空想をしていると」の例をとりあげてみれば、葉訳だけが「島村不愧是島村，他又陷入遐思」と否定表現に訳され、李訳では「島村正神馳於他常有的遙思空想時」と肯定表現に訳され、高訳も「島村又像往常那樣，冥想遐想起來」と肯定表現に訳される。訳者によって、一貫性がないことがわかる。

5 おわりに

日本語は否定表現を好む言語だと言われる。一方、先行研究からわかるように、中国語は否定辞が豊富な言語である。

本論では、拙論「否定表現の中国語訳に関する一考察—『雪国』の中国語訳本を例として—」を踏まえる上で、『雪国』の李永熾訳、高慧勤訳、葉渭渠訳を例に、日中両語における否定表現の反転現象を考察した。考察した結果、『雪国』の否定表現の使用例は 785 例である。三冊の中国語訳本では、李永熾訳『雪国』の否定表現の使用例が 804 例で、高慧勤訳『雪国』の否定表現の使用例が 865 例で、葉渭渠訳『雪国』の否定表現の使用例が 879 例である。『雪国』の李永熾訳、高慧勤訳、葉渭渠訳にかぎっていえば、起点テキストの日本語より目標テキストの中国語のほうが否定表現を多く使用していることがわかる。

李永熾訳の場合では、否定表現が肯定表現に訳された例は 145 例で、反対に肯定表現が否定表現に訳された例は 164 例である。高慧勤訳の場合では、否定表現が肯定表現に訳された例は 161 例で、反対に肯定表現が否定表現に訳された例は 241 例である。葉渭渠訳の場合では、否定表現が肯定表現に訳された例は 160 例で、反対に肯定表現が否定表現に訳された例は 254 例である。『雪国』の中国語訳本の対訳分析を通して、日中両言語に否定表現が肯定表現に訳され、肯定表現が否定表現に訳される反転現象がみられる。

なお、肯定表現が否定表現に訳された翻訳のパターンをみれば、「忘れていた（沒有想到）」「物語めいた興味（不尋常的興味）」「失敗した（不合適）」といった前後文に合わせた語用的な使用例がみられる。また、「悪い（不好）」「止めた（不要了）」「いや（別這樣）」といった形態上が肯定で、意味上が否定というような会話文は『雪国』に頻繁に使われたことがわかる。そのほかに、「なかなか終わらない（沒完沒了）」といった用例に日本語では否定表現が一回使用されたが、中国語訳では否定表現が二回使われたことがわかる。そして、「一度も（一次也沒有來過）」といった用例に日本語の省略された部分を補ったために、中国語訳では否定表現を使用した例がみられる。

つぎに、「動詞の状態を強める例」の訳語例が多いことを指摘したい。「びっくりした」を四文字熟語の「驚愕不已」、つまり「～不已」といった形に訳され、肯定プラス否定の重複効果によって動作の状態を強める修辞の表現が目立った。

最後に、『雪国』の否定表現が肯定表現に訳され、肯定表現が否定表現に訳される用例に、訳者によって一貫性がなくばらつきが大きいことを指摘したい。一貫性がない故、李訳、高訳、葉訳によっての日中両言語における否定表現の反転現象の総用例数が多く、日中翻訳における否定表現の語用的、多様な特徴が顕著である。

（本稿は2020年10月17日、政治大学で開催された国際シンポジウム「東アジア漢字文化の伝承と革新」（東亞漢字文化的傳承與創新）で口頭発表した内容に大幅に加筆し、訂正をおこなったものである。）

参考文献

石毓智、『肯定和否定的對稱與不對稱』、台灣學生書局、1992。

- 俞光中・植田均、『近代漢語語法研究』、學林出版社、1999。
- 趙元任著丁邦新訳、『中国話的文法』、學生書局、1994。
- Susan Bassnett 著林為正譯、『翻譯研究』、五南出版、2016。
- 沖森卓也・蘇紅編著、『中国語と日本語』、朝倉書店、2014。
- 加藤泰彦等編、『否定と言語理論』、開拓社、2010。
- 金田一春彦編、『日本語動詞のアスペクト』、むぎ書房、1976。
- 黄憲堂、『日本語の構文研究 黄憲堂論文集』、致良出版社、2016。
- 鈴木進一、「中国語の進行形否定表現について—テキスト・文法書における否定規則の違い—」、神奈川大学心理・教育研究論集、2015。
- 時枝誠記、『文法・文章論』、岩波書店、1975。
- 森田良行、『基礎日本語I』、角川書店、1977。
- Jeremy Munday 著鳥飼玖美子監訳、『翻訳學入門』みすず書房、2009。
- 藤濤文子監修・編訳、『翻訳研究のキーワード』、研究社、2013。
- 葉淑華、「否定述語のアスペクト的意味機能」、『台湾日本語教育論文集』第三号、1999、255-268。
- 葉淑華、「否定表現における交替現象を見る」、『邁向二十一世紀的日本研究國際會議論文集』輔仁大學、1999、103-117。
- 林綺雲、「日本語の否定表現から見た日本人の思考様式」、『「亞洲中的日本・日本中的亞洲」國際學術會議論文集』、大新書局、2001、337-353。
- 林寄雯、「日中両語における翻訳研究への試み——機能主義翻訳理論の観点から受身表現を考察する——」、『日本語の様々な姿を考える 黄憲堂記念論文集』、致良出版社、2016、275-303。
- 林寄雯、「否定表現の中国語訳に関する一考察—『雪国』の中国語訳本を例として—」、『台湾日本語文學報』44 輯、2018、199-224。